

物理と社会 つなぐ授業

読売教育賞 理科部門

教育分野で優れた業績をあげた個人や団体に贈られる「第69回読売教育賞」の受賞者が決まり、県内からは、理科教育部門の優秀賞に県立藤島高(福井市文京)の鈴木聡史教諭(39)が選ばれた。物理の授業で扱う電子部品「コンデンサー」への理解を深めてもらおうと、地元企業の技術者を招いた授業などを展開した点が評価された。

(橋野薫)

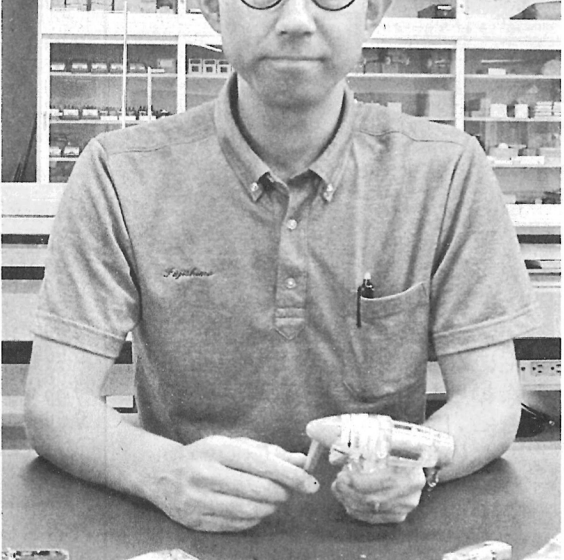
藤島高・鈴木教諭 優秀賞

充電や放電を繰り返し、電圧を安定させるコンデンサーは、あらゆる電化製品に欠かせない部品。高校の物理の教科書にしばしば登場するが、実物に触れる機会はずっとないという。高校の物理教諭として15年以上の経験を持つ鈴木教諭。「苦手意識を持つ生徒に『物理は難しいけど、学

ぶ価値がある』ということを伝えたい」と常に考えており、「物理が社会の中でどのように活用されているかを実感してもらおう」と、コンデンサーを実際につくったり、技術者から話を聞いたりする授業を計画した。昨年5月、福井村田製作所(越前市)に飛び込みで電話をかけ、コンデンサー

の開発や製造に30年近く携わった高木義一さん(62)に授業への協力を依頼。突然の申し出に高木さんは驚きながらも、趣旨を説明すると快諾してくれたという。アルミ箔などでコンデンサーを試作したり、約700個も詰め込まれているスマートフォンを分解したりといった授業を重ねた後、高木さんを教室に招き、原理や今後の需要について解説してもらった。授業後、生徒にアンケートをとると

「実社会と物理のつながりを学ぶのは面白かった」「地元企業について知ることができて意義深かった」などの回答が寄せられた。高木さんは「鈴木先生の準備があった上で、私の話を聞いてもらったので、理解してもらいやすかったのでは」と話した。



優秀賞に選ばれた鈴木教諭(藤島高)

鈴木教諭は「『基礎』

読売新聞R2.10.29

を重視する高校の授業で、『応用』にあたる企業の取り組みを扱うのは難しいかと思っただが、受け止めてもらえてよかった。生徒

たちにはこれからも、仮説を立て、考え、データを取るといった方法でしっかりと学んでほしい」と話している。